



NPO法人環境会議所東北（仙台市）主催の高校生を対象とした環境活動コンテスト「第22回環境甲子園」の表彰式が先月10日、市内で行われました。「環境甲子園」は環境と共生する社会の実現を目指し、エネルギーやごみ問題などさまざまなもので高校生の環境に関する取り組みを募集するものです。今回は応募21チームのうち10チームが入賞し、宮城県からは志津川高が優秀賞、多賀城高は奨励賞を受賞。上位5チームが太陽光パネルの廃棄ガラスの有効利用や海岸の生物調査などのテーマで、研究成果を発表しました。

環境会議所東北は持続可能な社会構築を目的に2000年に設立され、主に中小企業の環境活動支援、グリーン購入の普及啓発、環境甲子園開催など人材育成を取り組んでいます。

## NPO法人環境会議所東北



環境甲子園の表彰式で優秀賞を受ける志津川高の生徒＝仙台市青葉区のTKPガーデンシティPREMIUM仙台西口

NPO法人環境会議所東北  
所在地 〒981-3121仙台市泉区  
上谷刈3の10の6  
電話 022(218)0761

環境甲子園のページ  
へのQRコード



# 高校生が地域動かす

環境甲子園は01年に宮城県で始まり、3年目からは東北6県に対象を拡大しました。特別顧問の山岡講子さんは「環境活動に取り組む高校生にスポットを当て、コンテストを通じて応援したいとの思いから始めた」と語ります。

初めは学校を直接回り協力を呼びかけて地道にネットワークを広げ、参加校は延べ351校に上りました。17年からは環境省と環境再生保全機構が創設した「全国ユース環境ネットワーク」と連携。環境甲子園の参加校は全国ユース環境活動発表大会の東北地方大会にエントリーでき、全国への扉も開かれました。研究は学校の枠を超えて商品化に発展することも。

今回は、地域特産の里芋やエゴマの廃棄部分を活用した食品を開発・商品化し、限定販売までこぎ着けたチークがあります。

高校生の「地域に貢献したい」という熱意や課題に取り組む真剣な姿が農家や行政、企業を動かし、地域一体となつたまちづくりにつながっています。「地域との交流は、高校生にとって貴重な体験になる。コンテストがそのきっかけになればうれしい。両者をつなぐ役割も続けたい」と山岡さんは曰を細めます。

表彰式では高校生から「SDGs（持続可能な開発目標）や世界に貢献できるよう頑張りたい」との決意が聞かれました。高校生たちの環境活動は先輩から後輩に引き継がれ、地域へと着実に広がっています。（NPO法人せんたい・みやぎNPOセンター 鶴巻さやか）